

この春、新たな目標に向かって踏みだそう、最初の一步を

その生き方、その目標、それはきっと、ステキな人生の始まりです。

※書籍右横の番号はセンターでの検索番号です。



何をやってもダメだった私が、
教わったこと。気づいたこと。
実行したこと。

2009年 ダイヤモンド社
 渋井真帆（著）

[800-2]

ビジネスパーソンが夢を実現するために必要な「ビジネス基礎力」を分かりやすく、楽しく解説している。

それはズバリ、①ビジネス思考力②コミュニケーションスキル③事業プラン作成④マーケティング⑤プロフェッショナル資質の5つ。

経営者、会社員、フリーランスなど立場が違って、これらのスキルを身につけることで成功の可能性がアップすること間違いなし！順番に読むのがお勧めですが、自分の苦手な項目を必要に応じて読むのもOK。

夢に向かって何度でも挑戦しよう！（かかし）



ケアのカリスマたち
看取りを支える
プロフェッショナル

2015年 亜紀書房
 上野千鶴子（著）

[1000-2]

団塊世代が後期高齢者になる2025年には「おひとりさま」がピークを迎える。不足する病院にも施設にも死に場所を求めることのできない看取り難民はその時どうなる…？「在宅ひとり死」に取り組む著者が「最期まで自宅で生きて一人で死ぬ」ために必要な条件や費用を専門家たちに投げかけた。本書は著者の体当たり取材と、その疑問・難問に答える11人のプロフェッショナルとの対談集。会話形式の説明には共感できる部分多く、単身高齢者が自宅で穏やかに死ぬ体制の整備は、「可能かもしれないな」と思えてきた。（みっと）



銀の猫

2017年 文藝春秋
 朝井まかて（著）

[1200-2]

母親の借金が原因で婚家を追われた咲。夫と姑に傷つけられる日々のなかでただ一人、やさしく守ってくれた舅を思い出しながら介抱人として懸命に働く。介護現場での厳しい仕事、だらしのない母の世話。辛くなれば舅の形見「銀製の猫の根付」が入った懐にそっと手を当て、きりりと前を向き、病む老人に心を込めて寄り添う日々を取りもどす。物語の始まりは主人公二十五歳の初夏。情緒あふれる江戸人情を背景に、女性の自立と成長を描いた本書。巡り来る春、桜がすみの町を歩む女介抱人の姿が目に見え始める。（みっと）



九十歳。何がめでたい

2016年 小学館
 佐藤愛子（著）

[1200-3]

著者が、最後の長編小説「晩鐘」を書き終えたのは、八十八歳の春。これでおしまい、と「のんびり」の生活。ひとりムツとして座っている毎日にウツウツとしていたところに舞い込んだエッセイ連載の話。締切り目ざして脳細胞が動き始め、いつしか老人性うつ病から抜け出した。その連載をまとめた一冊。

人生を知り尽くしてもなお好奇心旺盛な彼女の目に映る景色に、自由奔放な言いたい放題!!思わず声を上げて笑ってしまった。

読むだけで勇気がわいてくることうけあい。（ルナ）